

# ドイツ政治から学ぶ 日本政治の課題

2023.2.15 市民社会フォーラム第256回学習会

木戸 衛一

(大阪大学大学院国際公共政策研究科)

# 自己紹介

- 1957年千葉県柏市生まれ、東京都葛飾区亀有育ち
- 都立墨田川高校、東京外国語大学、一橋大学大学院社会学研究科
- ベルリン自由大学で博士号
- 1988-1990 一橋大学助手、1990- 大阪大学
- 専攻:ドイツ現代政治・平和研究
- 1975.4.13 東京都知事選挙:美濃部亮吉vs石原慎太郎
- 1979 初めてのドイツ滞在
- 1985-86 東独ライプツィヒ大学留学
- 1994-95 ベルリン・フンボルト大学で研究滞在
- 2000-01 ライプツィヒ大学客員教授
- 2019-20 ボーフム大学客員教授



<https://www.ruhr-uni-bochum.de/bilder/luftbilder/index.htm>

# さしせまる破局、それとどうたたかうか

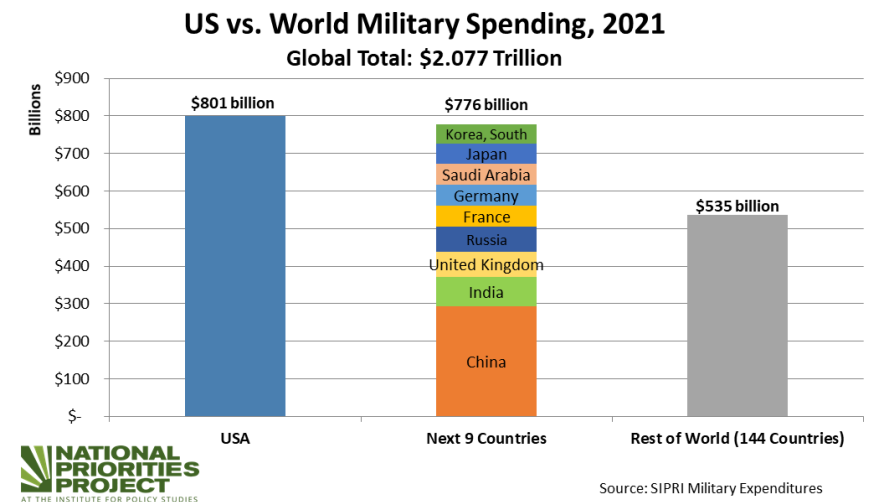


- 貧富の格差拡大、貧困の深刻化: 富裕層上位1%に世界の富の63%が集中(ドイツ81%! )、富裕層と1日1.5ドル以下で暮らす極度貧困層が同時に増加(1.16 Oxfam)  
<https://www.oxfam.de/ueber-uns/aktuelles/soziale-ungleichheit-krisen-profite-reichstes-prozent-kassiert>
- 気候変動: 1.19 グレタ・トゥンベリ(「無限の成長というおとぎ話」)、世界経済フォーラムで同会議に参加している政財界のリーダーこそが「地球の破壊」に拍車  
<https://thebulletin.org/doomsday-clock/current-time/>
- コロナ・パンデミック →2020.10.4 ローマ教皇の新回勅Fratelli tutti、2020.12.2 アントニオ・グテーレス国連事務総長「私たちの惑星の状況」; マタイ原則(「だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。」25-29)
- ロシアのウクライナ侵略戦争: 主権尊重、領土不可侵、武力行使の禁止という第二次世界大戦後国際秩序の基本原則を公然と蹂躪
- エネルギー・食糧危機: 大手食品、エネルギー企業は例年の2倍以上の収益(Oxfam)
- 「狂気は個人にあっては稀有なことである。しかし、集団・党派・民族・時代にあっては通例である。」(フリードリヒ・ニーチェ『善悪の彼岸』)
- レーニン⇔ローザ・ルクセンブルク(「自由とは常に、異なる考えを持つ人の自由である。」)

# 軍事化する世界

- 2022.4.25 世界の軍事費：7年連続増額、2021年に2兆1130億ドル（ストックホルム国際平和研究所（SIPRI））
- 2021.12.14 各国政府に軍事費を年間2%削減するよう求める公開書簡：世界のノーベル賞受賞者50人以上が賛同、「軍拡競争の悪循環」 <https://peace-dividend.org/>
- 2022.2.24 ロシアがウクライナ侵略開始。プーチン、核兵器使用の威嚇
- 2022.10.27 米「核態勢の見直し」（NPR）：「米国や同盟国、パートナー国が極限の状況に陥った時にのみ核兵器の使用を検討」
- グテレス国連事務総長らが求めてきた核兵器の先制不使用政策や、核兵器の役割を敵の核攻撃抑止や核攻撃への反撃に限定する「唯一の目的」政策は採用せず
- ドロテー・ゼレ「軍拡は戦争がなくても人を殺す」

<https://www.nationalpriorities.org/blog/2022/06/22/us-still-spends-more-military-next-nine-countries-combined/>



# 「民主主義対専制主義」？

- 大国の二重基準
- 西側:「大西洋からウラル山脈まで」(ゴルバチョフ)の無視、NATOの東方拡大(2008.4.3 ブカレスト宣言「ジョージアとウクライナはNATO加盟国に」)、軍縮条約からの一方的な離脱・未批准(弾道弾迎撃ミサイル制限条約(ABM条約)、ヨーロッパ通常戦力条約(CFE条約)、中距離核戦力全廃条約(INF条約))
- 「対テロ戦争」「人道的介入」:「自派勢力に武器と義勇兵を投入し、それを正当化するために人道と正義をかざす」(酒井啓子『毎日新聞』2022.4.14)
- 航空機搭載高速ロケット、サイバー攻撃、無人攻撃機など未規制
- 「冷戦期の遺恨や対テロ戦争の残滓は世界に遍在し、日本もそのくすぶった焼け跡のなかにある。」(同上2022.10.23)
- 「ポスト・デモクラシー」(「自由、民主主義、人権」)⇔強権支配

# 「2012年体制」下日本の軍事化

- 軍事費：11年連続増大、9年連続過去最多を更新
- 「積極的平和主義」⇨軍産官学情労複合体

2013年	「秘密保護法」
2014年	武器輸出原則解禁、集団的自衛権行使容認の閣議決定
2015年	安保法制(「戦争法」)
2016年	核兵器、生物・化学兵器の保有・使用は「合憲」との閣議決定
2017年	「教育勅語」・ヒトラー『わが闘争』の教材使用を認める閣議決定、「共謀罪」
2020年	日本学術会議の会員任命拒否
2021年	重要土地利用規制法
2022年	経済安全保障法、国際卓越研究大学法、「安保関連3文書」閣議決定
202?年	徴兵制？

# 日独比較の視座

- 近現代史の共通点
- 1873.3.15 岩倉使節団を迎えOtto von Bismarck首相のレセプション
- 今日の立ち位置の違い:「煙独」?
- ①隣国との和解
- ②地域統合の推進
- ③覇権国家への対応
- 「人間の尊厳は不可侵である。」
- 政治教育
- 軍事協力:2021.4.13/2022.11.3「2プラス2」

# 平和主義の終焉？

- 「武器なしに平和を創る」: 1989年東独平和革命
- ⇔ 「より多くの武器で平和を創る」
- 東方外交は無意味だったか？
- 普遍主義 & パワーポリティクス cf. 冷戦期西独: 「赤 (rot) よりも死 (tot) を」
  
- 自らを疑うことの意味
- 「自分は何か大事なことを見逃していないか？」 「別の道も行けるのではないか？」
- ≠ 自分の見解の放棄、間違ったらいけないという不安から自分を局外に
- 自己と他者の架橋: 正邪、善悪
- “De omnibus dubitandum” (An allem ist zu zweifeln): Karl Marx (1867)
- 「なぜ生きるかを知っている者は、どのように生きることに耐える」(ニーチェ)『夜と霧』128頁



# 平和を望むなら平和に備えよ

- Si vis pacem para bellum: Flavius Vegetius Renatus (ローマ帝国の軍事学者)
- Si vis pacem para pacem: 「力頼みの安全保障によって平和を得ることはできない。平和によって安全保障が得られるのだ。」ヨハン・ガルトウング『日本人のための平和論』ダイヤモンド社、2017年、2頁
- 平和⇔暴力 (「可能性と現実とのあいだの、つまり実現可能であったものと現実には生じた結果とのギャップを生じさせた原因」)
- 暴力の三角形 (直接的・構造的・文化的暴力) の克服: 消極的平和・積極的平和
- 態度における「共感」、行動における「非暴力」、対立における「創造性」
- #MeToo、FFF (「私たちはここにいる。私たちは声を上げる。あんたらが私たちの未来を奪うから」)、BLM
- 2021.1.22 核兵器禁止条約発効 ⇒ 署名92カ国・地域、批准68カ国・地域
- 2022.12.15 平和構想提言会議「戦争ではなく平和の準備を」<http://heiwakosoken.org/teigenkaigi/>
- 大阪都構想住民投票、東京杉並区長選
- 政治のフェミニナイズーション ⇔ 男性原理: 優越志向・権力志向・所有志向